

シリーズ  
原発・いのち・みらい  
その42

写真で伝える

福島の非日常

理事 斉藤 典才 (金沢市・外科)



講師の赤城修司氏



57人が参加し開催された (11月27日・近江町交流プラザ)

福島原発事故が発生して以降、保険医協会の「原発・いのち・みらいプロジェクト」では年に二回ほど講演会を開催し、市民公開講座として勉強を続けている。十一月二十七日(日)に近江町交流プラザにおいて、赤城修司氏(福島市在住、高等学校美術教員)を講師に迎え講演会を開催し、五十七人が参加した。

赤城氏は震災以前からツイッターを始めていたが、震災、特に福島原発事故後、

に身の回りで起こっている非日常的な事象、それは、

メディアでは決して報道されず、多くの福島市民も関心が無くなっているような事象を写真に撮りツイートしてきた。広範な除染を行った今でも、福島市では放射線量の高い場所が身近に存在する。福島市民は、事故前の五〜十倍の汚染が残存する土地で暮らしているのだ。除染作業で集めら

7つの間違い 回答(問題7面)



【答え】①男の子のズボン ②右の旗 ③卵の殻 ④むいたミカン ⑤フォーク ⑥机の足(左) ⑦左の女の人のたもと



写真集『Fukushima Traces 2011-2013』

3.11(以後)へのまなざし  
福島市民が撮りつける「日常のなかの非日常」

彼が撮る写真の多くは、福島市の復興にとっては妨げとなるものであり、普通に生活している多くの市民にとっては「それがどうしたの?」と言われるようなものであるが、彼にとつては大変気になり、「残さなければならぬ」という使命感が彼を突き動かしているように思える。彼がこうした写真を撮り、ツイッターで語ることで、世の中が変わるのは難しいかもしれない。彼のツイッターしてきた写真をまとめた『Fukushima Traces 2011-2013』という本が出版されているが、彼の目には異常と映る光景が、多くの市民には全く問題のないこととして見えているのである。ちょっと恐ろしく感じてしまう。今の福島市民の生活環境が正常ではないことを、私たちは再認識すべきではないだろうか。

会員の先生方へ  
国保制度の改善を  
求める金沢市長宛て  
要請署名を  
お送りください

昨年11月から会員の皆さまへご協力をお願いしている「国民健康保険制度の改善を求める金沢市長宛て要請署名」がお手元になりましたら、保険医協会へ1月17日(火)までにお送りください。

石川県保険医協会  
●送付先住所  
〒920-0902  
石川県金沢市尾張町2丁目8番23号  
太陽生命金沢ビル8階

次回は忘年会のため、今年最後の理事会(=議論の場)である。今日も分厚い資料が目前に並び、総務部を皮切りに各部からこの間行われた諸活動の報告がなされた。機関紙・文化部からは、初めて開催された「かぶら寿司作り体験」の報告があり、参加者報告を読むと大変有意義な企画であったようである。定員をオーバーする参加の問い合わせがあり、お断りせざるを得なかったが、来年度も企画する予定なのでぜひご応募をお願いしたい。

第13回理事会点描  
負担増計画が  
目白押し  
(12月6日・13人出席)

医療保険制度改革に対する方針の検討が中心となった。十一月三十日の社会保障審議会医療保険還率の見直しは来年度の法律改正には盛り込まれない見通しとなった。しかし、入院時の光熱水費の負担増や七十歳以上の高額療養費制度の見直し、後期高齢者保険料の軽減特例の見直し、介護利用料の見直しなどが来年度実施に向けて具体化が進められる見込みである。特に生活が厳しい高齢者に対する負担増が目白押しとなっており、これをやめさせなければならぬと思う。会員の先生方や患者さんへの署名の呼びかけをどのように行うか熱く議論された。

【斉藤 記】

景観の「救済」

3	8	6	9	7	1	5	4	8	2	3	6	5	4	9	4	6	3
8	9	6	2	1	3	4	8	3	9	2	8	3	1	9	4	8	8
6	9	4	4	8	3	5	7	2	8	3	1	7	5	4	8	2	7
1	7	1	3	4	3	6	2	8	3	1	9	4	8	2	4	6	3
5	7	1	9	8	2	4	8	6	1	3	5	2	7	8	3	6	3

「8」はえき、てし十一  
景観の「救済」

景観の「救済」

景観の「救済」

景観の「救済」

景観の「救済」

景観の「救済」

景観の「救済」